

和光市 アンケート調査結果の分析

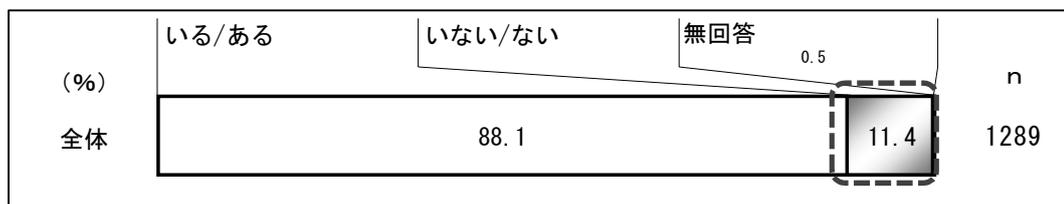
I 就学前児童の保護者対象調査

1. アンケート調査結果の分析

(1) 子育ての孤立化

アンケート調査結果によると、およそ1割程度の保護者は「子育てに関する相談先はない」としています。全国的に核家族化が進むなか、子育ての孤立化が懸念されます。

■ (参考) 子育てについて相談できる人の有無 ■

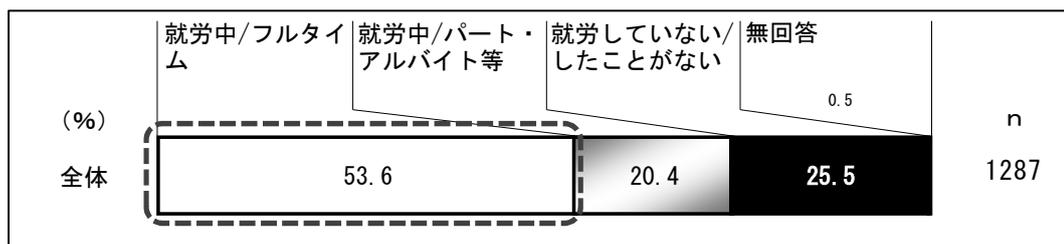


(2) 共働き・共育て

「こども未来戦略」では、(1)若者・子育て世代の所得を増やす、(2)社会全体の構造や意識を変える、(3)すべてのこどもと子育て世帯をライフステージに応じて切れ目なく支援していくことを基本理念として掲げ、共働き・共育てを推進しています。母親の雇用形態として、フルタイムで働く母親も増えており、日中、保護者が家にはいない時間帯が増えていることが予想されます。

保護者の子育てと就労を両立するための教育・保育サービス提供体制が求められます。

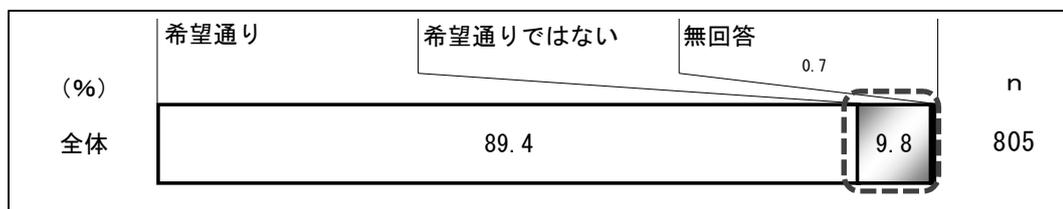
■ (参考) 母親の就労状況 ■



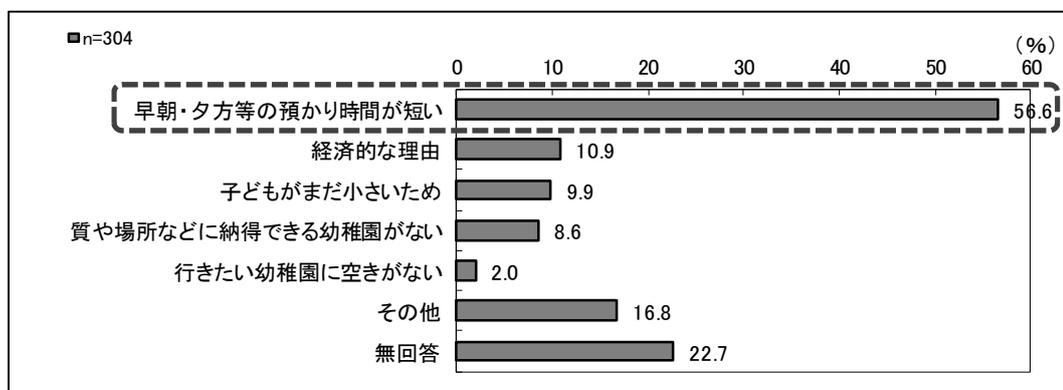
(3) 保育の受け皿

和光市では、第1期、第2期の子ども・子育て支援事業計画に基づき、教育・保育、地域子ども・子育て支援事業の提供量の確保を推進してきており、待機児童数は大きく減少してきていますが、一部で、希望する場所、タイミングで事業を利用できないケースも発生しています。

■ (参考) 希望通りの場所で教育・保育の事業を利用できているか■



■ (参考) 幼稚園を利用していない理由■

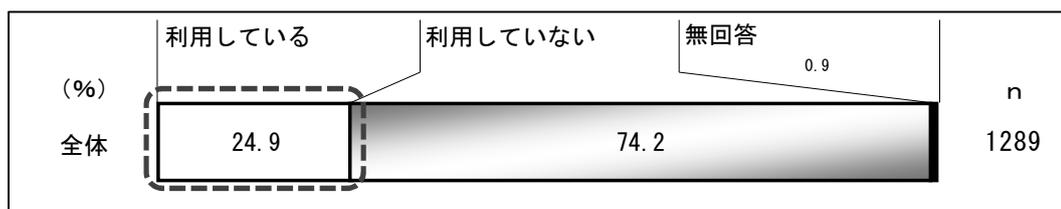


(4) ネウボラ拠点

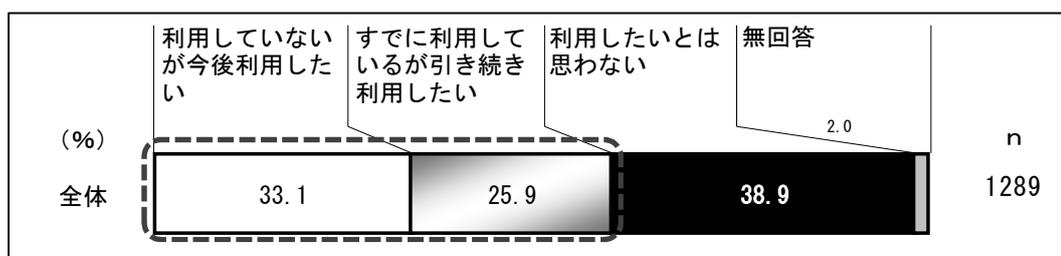
市では、妊娠、出産、子育てまでの切れ目ない子育て支援を実現するために、子育て世代包括支援センター等のネウボラ拠点を設置していますが、利用されている割合は24.9%に留まっています。

一方、今後の意向については、現在利用している方を合わせると59.0%の利用意向があることがわかっており、サービスの周知やイベント・相談体制の充実などを通じ、子育て世帯の産前・産後のサポート、育児の不安解消、交流促進等に努めていく必要があります。

■ (参考) ネウボラ拠点の利用状況 ■



■ (参考) ネウボラ拠点についての今後の利用意向 ■

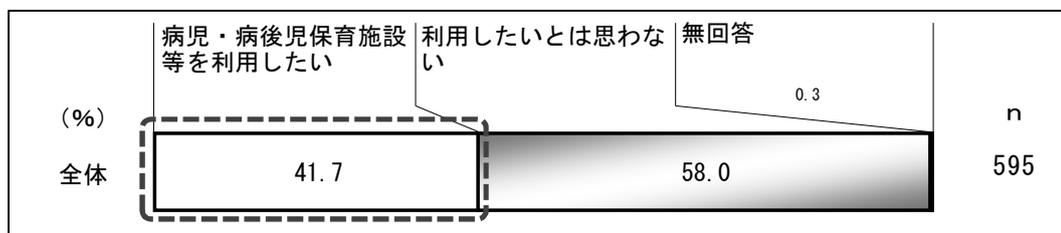


(5) 病児・病後児保育、一時預かり

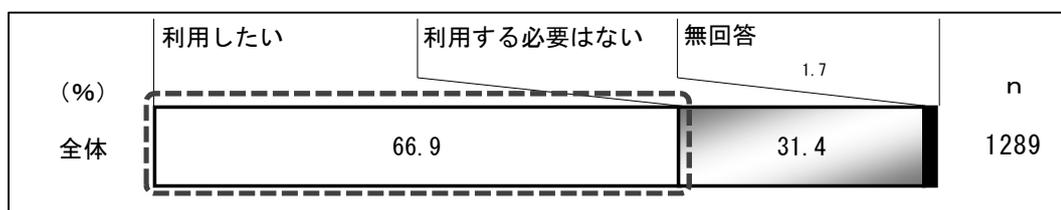
病児・病後児保育や一時預かりへのニーズが高まっています。

子育ての孤立化や仕事と育児の両立等のため、保護者のリフレッシュのための一時的な預け先や、病気などの際の一時的な預け先の確保が求められています。

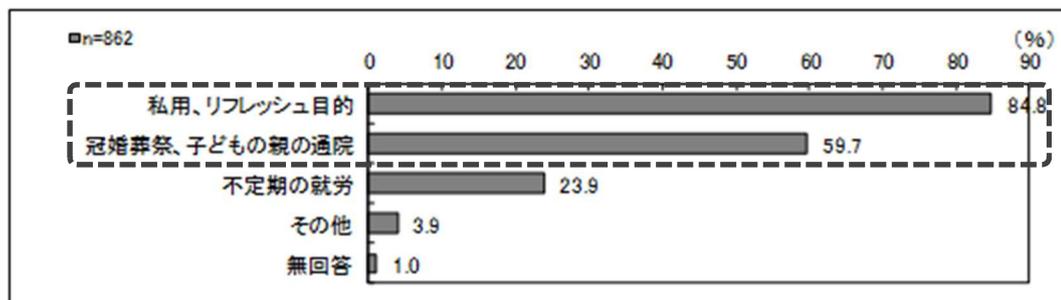
■ (参考) 病児・病後児保育施設等の利用意向



■ (参考) 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用意向



■ (参考) 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用目的

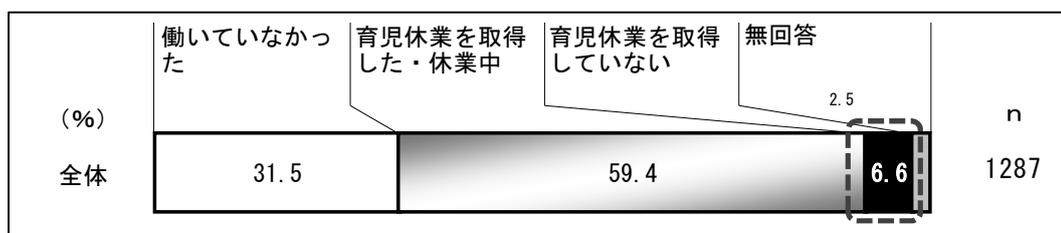


(6) 父親の育児休業取得

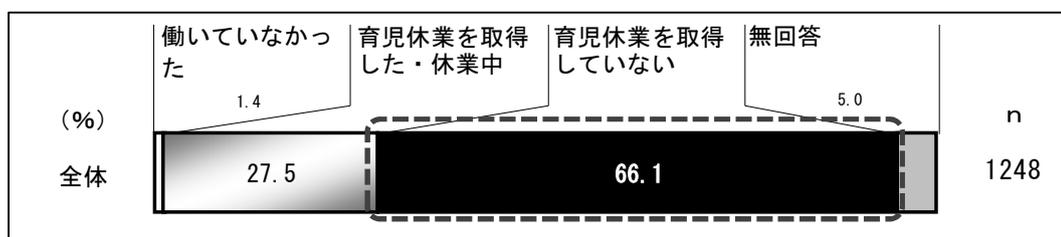
アンケート調査結果によると、働く父親のうち「育児休業を取得していない」と回答した割合は66.1%となっています。

働く母親が増える一方で、父親の育児休業取得は母親と比べて少ない状況が続いており、社会全体で男性育休を当たり前にし、社会全体が子育てを支える機運の醸成が求められます。

■ (参考) 母親の育児休業取得状況 ■



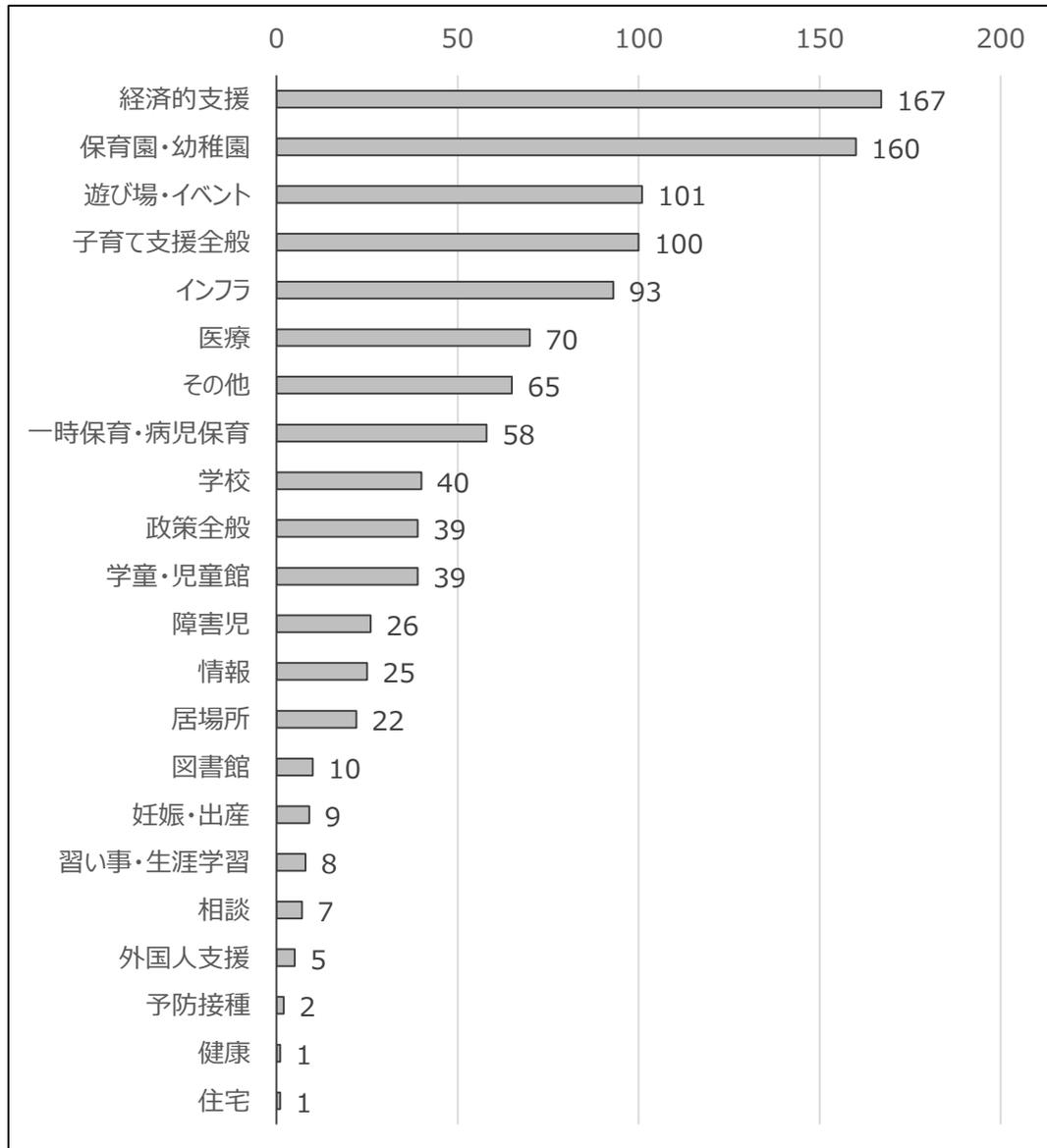
■ (参考) 父親の育児休業取得状況 ■



2. 問 33（自由意見）の分析

就学前児童の保護者対象調査「問 33 最後に、子育て支援に関してご意見がございましたら、ご自由に記入してください。」について、意見の内容を分類し、分類ごとの意見を整理しました。

■（就学前の保護者対象調査）自由意見の分類別件数■



経済的支援

市民からは、特に保育料の高さや東京都との比較での差異、子育て世帯への経済的支援の不足が指摘されています。

第二子以降の保育料無償化、給食費の無償化、さらには子育て世代向けの現金支給など、具体的な政策の拡充が求められています。

また、児童手当や医療費補助の拡充、保育施設の充実も期待されています。

保育園・幼稚園

保育園や子どもの遊び場が限られているため、保育園に入れなかった場合や預け先がないことに不安を感じる傾向がみられます。

保育士の離職率が高い園には改善指導を行うなど、保育士の労働環境改善の必要性に関する意見もみられます。

また、マンション建設の増加に伴う保育施設の不足への懸念や、きょうだいで同じ園に通えないなど、希望する園を利用できないという課題が指摘されています。

遊び場・イベント

和光市には子育て世代包括支援センターや児童館が充実しており、特に「わぴあ」のような施設があることに対しては好意的にとらえる意見がみられます。また、各種イベントも楽しく参加でき、子どもたちの成長に寄与しているとの声など市の対応や施設の整備に対する感謝の声が多く、全体的に子育て環境が良好であると評価されています。

一方で、小さな子どもが遊べる遊具がある公園の整備や、子どもが安心して遊べる場所が限られていることや、子育て世代包括支援センターの混雑緩和策やイベント数を増やしてほしいという改善を求める声も寄せられています。

子育て支援全般

和光市の子育て世代包括支援センターについては、住んでいる地域に関係なく、どのセンターでもサービスを受けられるようにしてほしいという要望が寄せられています。

産後の母子ケアについては、特に産後うつに対するケアの充実が指摘されています。

また、ファミリー・サポート・センター事業については、制度の利用に手間がかかり、急な利用が難しいことから、もっと使いやすい形に改善してほしいとの声が寄せられているほか、緊急時に子どもを預けられる場所がないことが問題視されています。

子育て世代包括支援センターや児童館の利用には感謝の声も多い一方で、イベントや施設の運営時間、場所についての改善が期待されています。

インフラ

回答者の多くが道路の改善と公共交通機関の充実を求めています。

特に、幅の狭い道路や歩道がないことが安全上の懸念として挙げられており、子どもや高齢者の安全を考慮した施策が望まれています。ベビーカーが通れる道の整備や、子どもと安心して歩くことのできる歩道の整備が強く望まれています。

また、バスの本数や路線の拡充、バス停の整備も指摘されており、子育て世帯の利便性向上が求められています。

医療・健診

小児科が少ないという問題が繰り返し強調されています。予防接種や診察のために他市区まで通っている実態や、保育園終わりに通える小児科がほとんどなく不便であるといった具体的な意見が述べられています。

また、乳幼児健診が月1回では子どもの体調不良時に対応が難しいことから、月2回に増やしてほしいとの具体的な要望があります。

一時保育・病児保育

一時保育の利用可能日数が増えると助かるという声が出ています。一時保育の枠が少なく、利用目的がリフレッシュであっても倍率が高く利用しづらいことや、利用時間が短いため用事等で一時保育を利用する際に断念することがあるといった声があります。

また、病児保育の枠が少なく、需要と供給がミスマッチであるとの指摘があります。利用しやすい病児保育が充実すれば、働く保護者の負担が軽減されるとの声が出ています。

学校

市北側に中学校がないため、子どもたちが遠い中学校に通うことに不安を感じる声があります。

また、教育環境の改善も求められており、学校施設の老朽化や設備についての指摘もあり、子どもたちの教育環境の向上を期待する声があがっています。

政策全般

働きながら子育てできる子育て支援の充実や、子育て環境の整備が求められています。特に東京都と隣接していることから、子育て支援の比較が多くあがっています。

市の北側では、商業施設や遊び場が南側に比べて少ないとの声など、特に『わびあ』のような総合児童センターの設置を希望されています。また、図書館の整備についても声があがっています。

和光市独自の子育て支援のPRが求められているほか、支援制度を知らないということがないような情報提供の充実が求められています。

学童・児童館

老朽化した児童館の施設を新しくし、衛生面を強化してほしいという要望があります。学童の問題については、民間の学童施設が少ないことや、通っている学童が学校の敷地外であることに不安な声があがっています。また、長期休暇中の学童受け入れ人数の増加や、民間の学習型学童施設の導入が求める声があります。

わこうっこクラブの利用が助かるとの声も多く、特に低学年の子どもにとって安心して遊べる場所として評価されていますが、一方で土曜日も利用できると助かるとの意見もあります。

全体として、学童や児童館の施設の充実や利用時間を延長することについての意見など、親が安心して働ける環境の整備が求められています。

障害児

発達に不安を抱える親たちは、市役所や関係機関と関わりながら、就学に向けた不安や子どもの発達障害に対する支援の不足を感じています。具体的に、幼稚園や小学校の支援級の質の改善や、支援の受け皿の少なさをあげています。また、共働き世帯にとって、児童発達支援センターの預かり時間が短く、仕事を休まざるを得ない状況が多く、発達に問題がある子どもを育てながら働き続けることが難しい現状をあげています。

他の地域と比較して、支援体制が整っていないとの声もあり、支援施設の量と質の向上が求められています。

医療的ケア児の受け入れ態勢も、近隣の自治体に頼らざるを得ない状況が続いており、市の取り組みの遅れが指摘されています。全ての小学校に特別支援学級を設置し、保育園や療育施設の先生、相談員などのサポートが充実してほしいとの声があがっています。

情報

保育園の申し込み手続きのデジタル化を望む声が多くあります。

また、SNSで情報発信している施設はイベント情報が得やすいが、SNSで情報提供がない施設は情報が得にくいとされています。DX化やオンライン決済の導入も期待されています。

また、幼稚園や小学校等の説明会をオンラインで開催することを希望する声もあります。

子どもと一緒に利用できる場所

小さな子どもと一緒に食事を楽しめるような飲食店が増えることを望む声が多く、特にキッズスペースのある店が求められています。また、子どもを保育士に預けて親がゆっくり食事できる場所や、フードコートのように子連れで気軽に利用できる場所の需要もみられます。駅前などアクセスの良い場所に、キッズスペースやカフェなどが併設された施設があれば、子育てがもっと楽しくなるという意見もあります。

子どもの居場所

児童館や図書館など親も安心できる子どもの居場所が増えることを望む声が多くあります。

子育て世代包括支援センターや児童館が充実している一方で、子どもの視点に立った居場所や施設の充実が望まれています。

図書館

市民からの図書館に関する要望は多岐にわたっており、老朽化した図書館の整備、絵本の配達サービス、オンラインでの絵本選びなどを希望する意見があります。

また、ベビーカー利用者にとっては駅地下にあるブックポストが不便で、出張所付近に設置してほしいとの要望があります。

図書館本館については、おむつ替えや着替えのための設備の改善を求める意見も寄せられています。

妊娠・出産

妊娠・出産や産後ケアに関する支援を求める声が寄せられています。子育ての孤立化を防ぐため、妊娠時や産後の心のケアや休息がとれるサービスが求められています。

習い事・生涯学習

子どもに習い事をさせたい保護者の声として、金銭的な負担や送迎の負担への不安が挙げられています。また、習い事の選びのための情報を求める声も寄せられています。

相談

市役所を含む公的機関への相談について、感謝の声が寄せられている一方で、十分な対応が受けられなかったという声がありました。

外国人支援

公共サービスにおける外国語対応や市での暮らしにおける外国語サポートが求められています。

その他

- 市は住みやすいと感じている人が多く、自然が豊かで子育てしやすいと住環境については評価されていますが、隣接地域とのサービス格差の指摘が多くあがっています。
- 各種手続き等については、書面での申請や記載事項が多いことに負担を感じている人が多くいます。
- 父親の育児参加についても課題が指摘され、夫の育児参加が低いことに不満を持つ声から父親が育児に積極的に参加するための対策を望む声があがっています。父親参加型のイベントが増えることを希望する声があります。
- 急な子どものお迎えに対応できるサービスが欲しいとの意見があり、特に天候によって左右されるとの声があります。
- 転入手続きの際に、子育て世代向けの情報がなかったとの意見もあり、転入時への子育て支援の案内が求められています。
- 教育環境については、不登校の子どものためのフリースクールがなく困っている人がいます。
- 多胎支援の充実や、親のリフレッシュのための保育事業の充実を求める声があがっています。

3. その他の分析

その他、和光市子ども・子育て支援会議委員の皆様のアンケート調査結果に対するご意見や感想を踏まえ、市の現状について、配偶者の有無、相談先の有無によって、市の子育て支援事業等の利用状況や子育てについての考え等にどのような違いがあるかについて、クロス集計による分析を行っています。

(1) ネウボラ拠点の利用状況

ネウボラ拠点の利用状況をクロス集計で見ると、「配偶者はいない」、子育てについての相談先が「いない/ない」が、ネウボラ拠点の利用が少ない傾向がみられます。

また、ネウボラ拠点を利用していない理由をしてみると、「配偶者はいない」と回答した保護者では、情報の不足による理由や時間の制約による理由が高い割合となっています。

一方、子育てについての相談先が「いない/ない」と回答した保護者では、情報の不足による理由や友達がいなくことによる理由などが高い割合となっており、市のアプローチの工夫によって利用促進につながることを期待されます。

ネウボラ拠点の利用促進を図り、子育てをする保護者を孤立化させない仕組みづくりが必要となっています。

■ネウボラ拠点の利用状況■

		合計	問12 ネウボラ拠点の利用状況		
			利用している	利用していない	無回答
全体		1289 100.0%	321 24.9%	957 74.2%	11 0.9%
配偶関係	配偶者がいる	1238 100.0%	311 25.1%	920 74.3%	7 0.6%
	配偶者はいない	43 100.0%	8 18.6%	33 76.7%	2 4.7%
子育てについて相談できる人の有無	いる/ある	1135 100.0%	295 26.0%	833 73.4%	7 0.6%
	いない/ない	147 100.0%	25 17.0%	122 83.0%	0 0.0%

■センター等を利用していない理由■

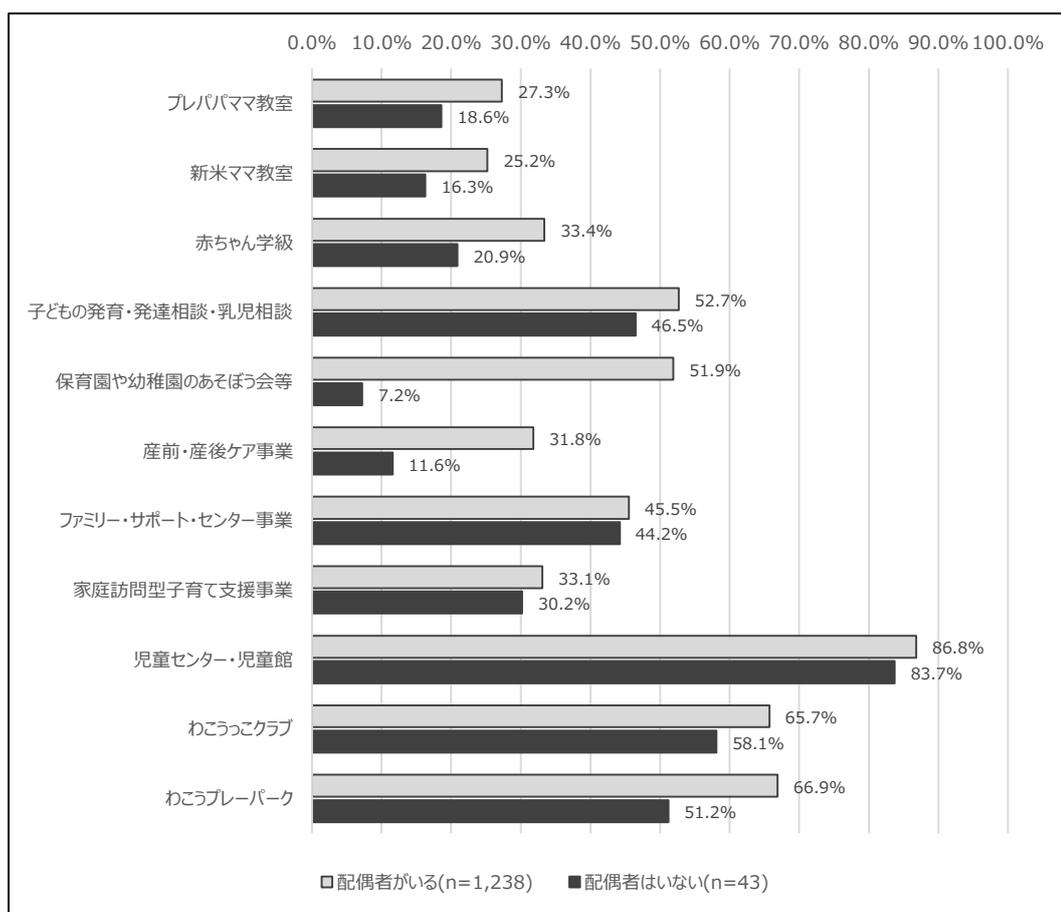
		合計	問12-4 センター等を利用していない理由								非該当	
			場所が遠い	曜日、時間が合わない	友達がいないので入りづらい	場所がわからない	センター等について知らない	事業の利用方法がわからない	特に利用する必要がある	その他		無回答
全体		957 100.0%	251 26.2%	245 25.6%	119 12.4%	76 7.9%	189 19.7%	189 19.7%	501 52.4%	108 11.3%	4 0.4%	332
配偶関係	配偶者がいる	920 100.0%	241 26.2%	230 25.0%	116 12.6%	74 8.0%	178 19.3%	180 19.6%	483 52.5%	105 11.4%	4 0.4%	318
	配偶者はいない	33 100.0%	9 27.3%	13 39.4%	3 9.1%	2 6.1%	11 33.3%	9 27.3%	16 48.5%	3 9.1%	0 0.0%	10
子育てについて相談できる人の有無	いる/ある	833 100.0%	214 25.7%	203 24.4%	95 11.4%	59 7.1%	153 18.4%	148 17.8%	455 54.6%	94 11.3%	4 0.5%	302
	いない/ない	122 100.0%	37 30.3%	41 33.6%	24 19.7%	17 13.9%	36 29.5%	41 33.6%	45 36.9%	14 11.5%	0 0.0%	25

(2) 子育て支援事業等の利用状況

「配偶者はいない」と回答した保護者について、子育て支援事業等の利用経験を見てみると、「家庭訪問型子育て支援事業」、「保育園や幼稚園のあそぼう会」、「赤ちゃん学級」、「新米ママ教室」、「プレパパママ教室」の利用経験のある割合が、「配偶者がいる」と比較して低くなっています。

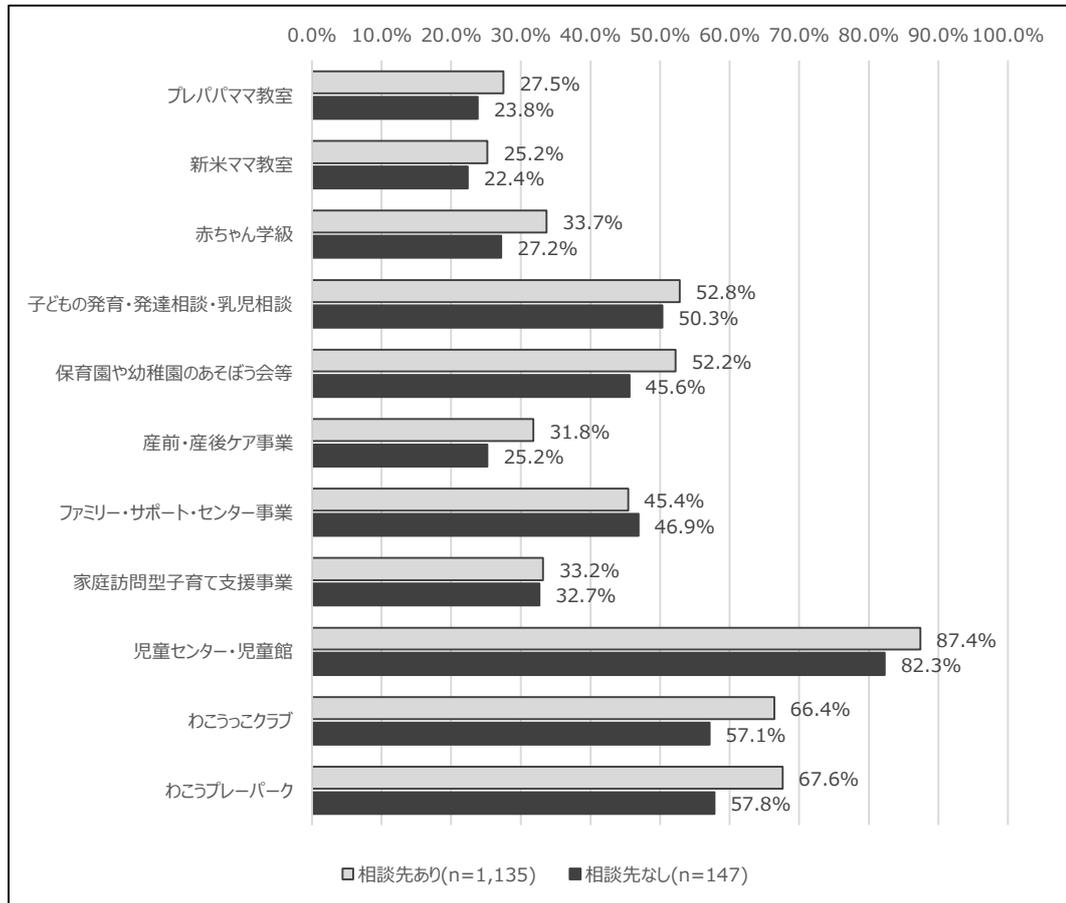
とりわけ、ひとり親による子育てにおいては保護者身体的・精神的負担が大きくなることが予想されるため、子育て支援事業やサービス等の活用を促し、子どもと子育てする保護者に寄り添う取組が求められます。

■子育て支援事業等の利用経験のある割合×配偶者の有無■



また、子育てについての相談先が「いない／ない」と回答した保護者について、子育て支援事業等の利用経験を見てみると、子育てについての相談先が「いる／ある」とした保護者に比べて、ファミリー・サポート・センターの利用経験がある割合が高くなっていることが特徴となっています。

■子育て支援事業等の利用経験のある割合×相談先の有無■



(3) 子育てを楽しんでいるか

「子育てを楽しんでいるか」についてクロス集計で見ると、「配偶者はいない」、子育てについての相談先が「いない/ない」が、「つらいと感じることの方が多い」と回答する割合が高い傾向がみられます。

市をはじめとして、地域全体で子どもの育ちと子育てを支える機運の醸成が求められます。

■子育てを楽しんでいるか■

		合計	問30 子育てを楽しんでいるか					
			楽しいと感じることの方が多い	楽しいと感じることが同じくらい	つらいと感じることの方が多い	その他	わからない	無回答
全体		1289	895	323	35	8	9	19
		100.0%	69.4%	25.1%	2.7%	0.6%	0.7%	1.5%
配偶関係	配偶者がいる	1238	866	308	32	7	8	17
		100.0%	70.0%	24.9%	2.6%	0.6%	0.6%	1.4%
	配偶者はいない	43	26	13	3	0	1	0
		100.0%	60.5%	30.2%	7.0%	0.0%	2.3%	0.0%
子育てについて相談できる人の有無	いる/ある	1135	818	269	24	4	8	12
		100.0%	72.1%	23.7%	2.1%	0.4%	0.7%	1.1%
	いない/ない	147	74	54	11	4	1	3
		100.0%	50.3%	36.7%	7.5%	2.7%	0.7%	2.0%

II 妊婦調査

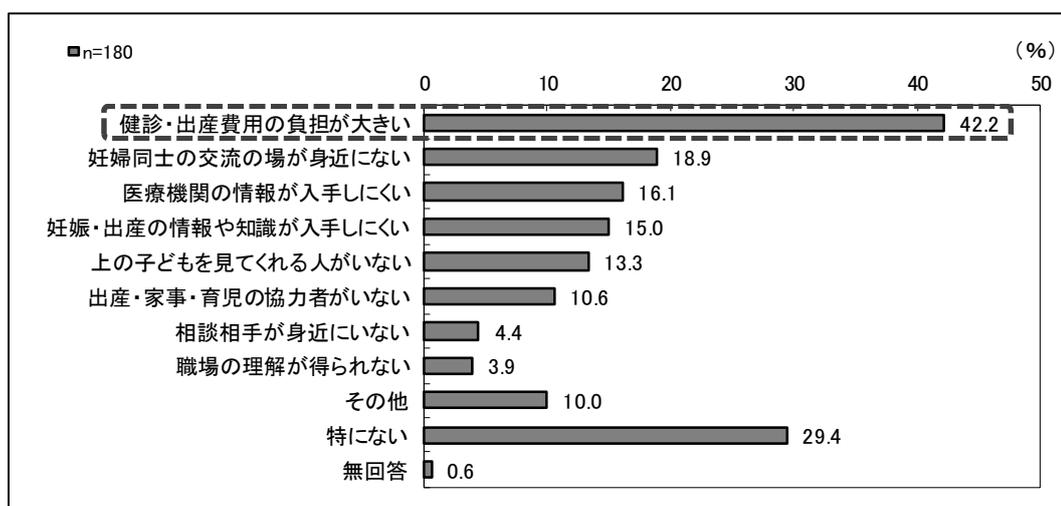
1. アンケート調査結果の分析

(1) 妊娠・出産における経済的負担

アンケート調査結果において、「妊娠や出産において困ったこと」として最も回答を集めたのは、「健診・出産費用の負担が大きい」で42.2%となりました。

妊娠・出産時には公費による補助があるものの、収入が減少するケースも少なくないため、妊娠・出産に係る費用を負担に感じる妊婦が多くなっています。

■ (参考) 妊娠や出産で困ったこと ■

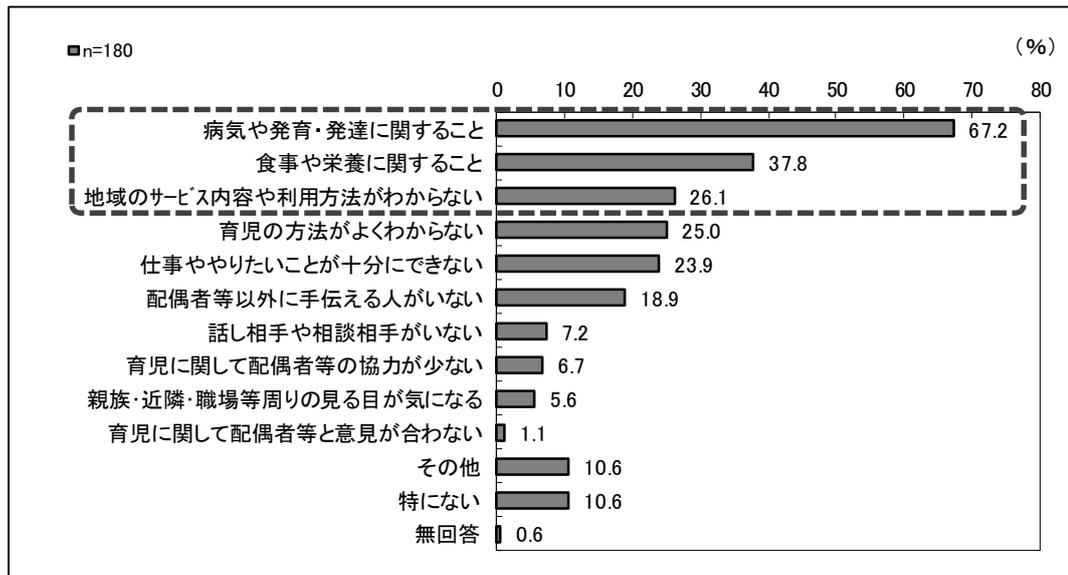


(2) 相談支援体制

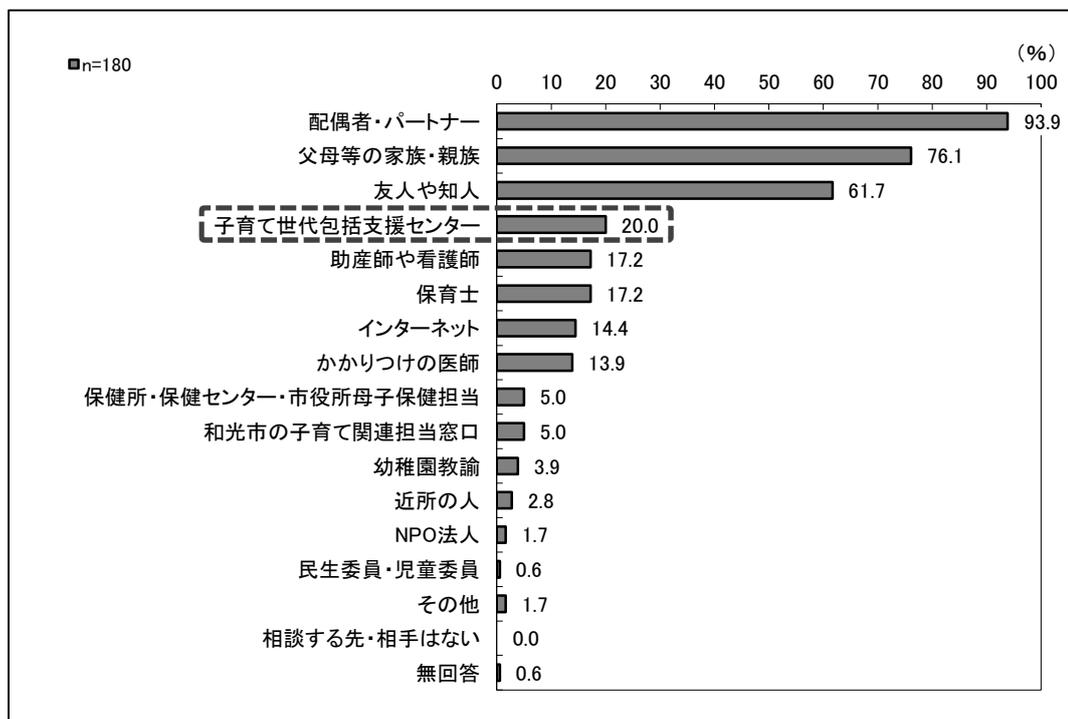
出産後の育児に関して気になることとして、「病気や発育・発達に関すること」(67.2%)が高い割合を占めており、「食事や栄養に関すること」(37.8%)、「地域のサービス内容や利用方法がわからない」(26.1%)等がこれに続いています。

妊婦が出産や子育てに関する相談先は家族や友人・知人等を除くと「子育て世代包括支援センター」を挙げる割合が多く、引き続きセンターの相談支援体制の充実や各種サービスの周知を行っていく必要があります。

■ (参考) 出産後の育児に関して気になること ■



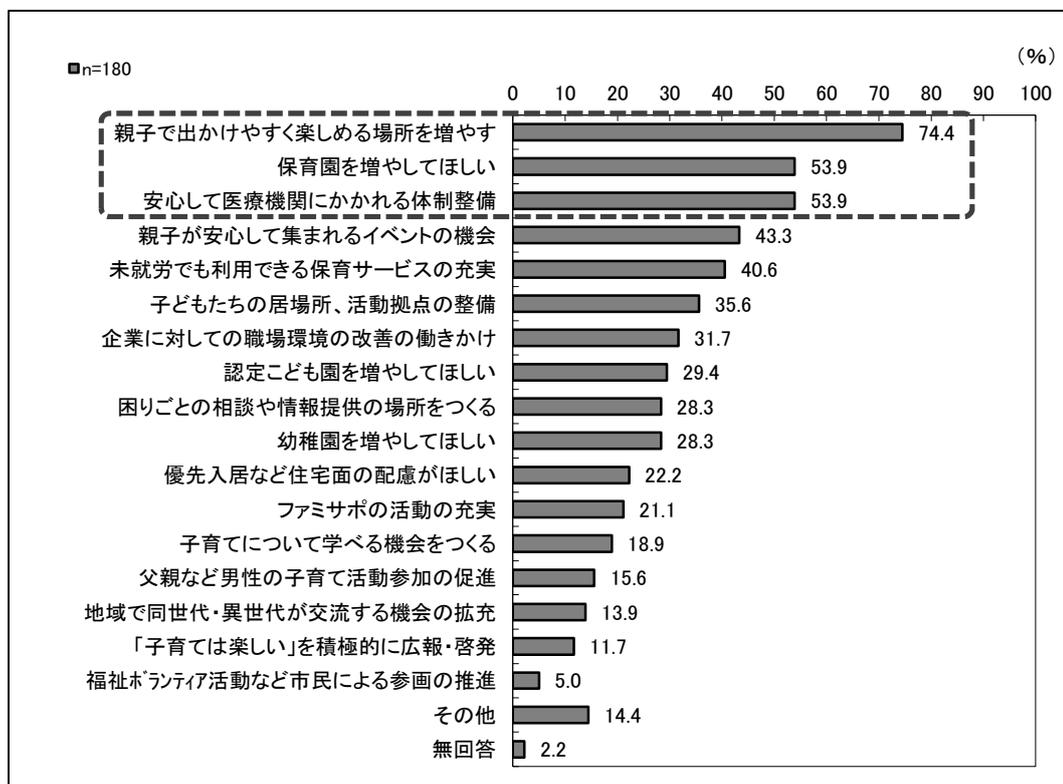
■ (参考) 出産や子育てに関する相談先 ■



(3) 必要な子育て支援

アンケート調査結果によると、充実を期待する子育て支援として、「親子で出かけやすく楽しめる場所を増やす」(74.4%)、「保育園を増やしてほしい」(53.9%)、「安心して医療機関にかかる体制整備」(53.9%)等が回答の上位を占めています。

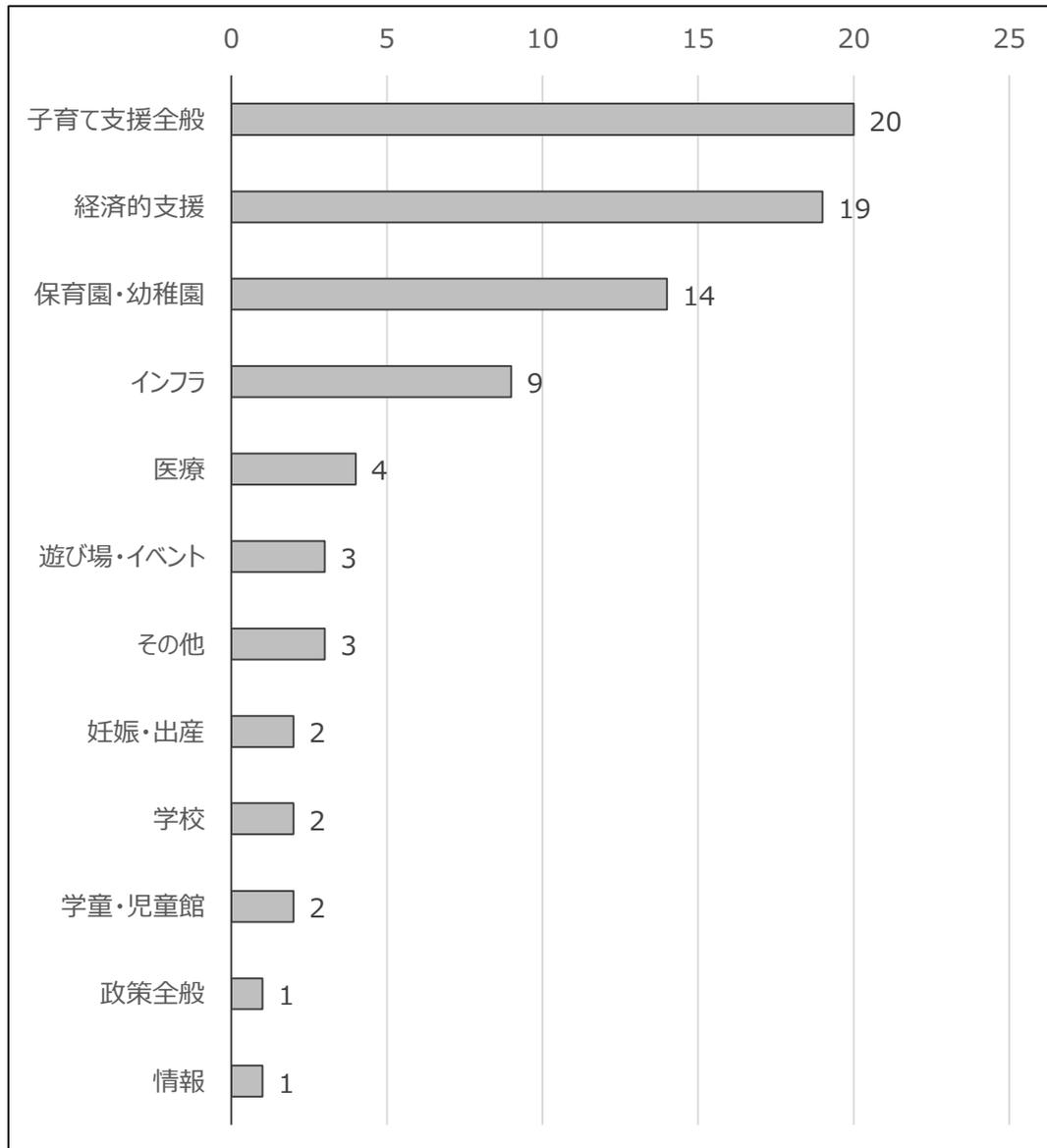
■ (参考) 子育て支援の充実のために市に期待すること ■



2. 問 29（自由意見）の分析

妊婦対象調査「問 29 これからの子育て支援に関してご意見がございましたら、自由にお書きください。」について、意見の内容を分類し、分類ごとの意見を整理しました。

■（妊婦対象調査）自由意見の分類別件数■



子育て支援全般

市や子育て世代包括支援センターの相談対応・サービスが充実していると評価されている一方で、昼食やおやつを提供、インターネット予約の導入が実現されるとさらに利便性が向上するとの意見があります。

また、東京都と和光市の間で子育て支援サービスに差があり、東京都のような手当やサービスを和光市でも提供してほしいとの要望があります。

経済的支援

電動自転車やヘルメットの購入補助、不妊治療に対する和光市独自の助成金やサポート、第二子以降の保育料無償化等が求められています。

所得制限のない助成を実現してほしいという希望があり、特に医療費、給食費、副教材費などの負担軽減が求められています。

その他、教育面にかかる金銭的な負担や、東京都と足並みをそろえた子育てに係る経済的支援を求める声が多くあがっています。

保育園・幼稚園

0歳児は自宅で保育して育休の延長を考えている家庭もあることから、0歳児の保育園入園枠を減らして1歳児の入園枠を増やしてほしいとの意見があります。

また、転居した場合の保育園入園問題や入園枠の確保、きょうだいで同じ保育園に入れる制度を希望する声があります。

認定こども園の増設や、特に保育園施設でのこども園新設を求める声もあり、特定のエリアでの大規模な保育園や、異年齢保育でない園の設置を望む声もあります。さらに、駅近くには小規模保育園しかないことや、保育園や幼稚園の料金に対する不安があげられています。近隣と比較した保育園料金の高さについての意見が多く寄せられています。

共働き世帯のためのサポートや優遇、保育園の量的充実、園庭のある保育施設の増加、延長保育後のバス送迎のある幼稚園の設置など、保護者の多様なニーズに応えるための支援が求められています。

インフラ

子育て中の移動手段として、子どもを乗せられるレンタルサイクルやベビーカーでも気軽に乗れる循環バスが求められています。

和光市駅の利用について、人口増加による混雑や災害時の避難場所確保に対する対策が求められているほか、子育て世代に配慮した駅周辺環境の整備が期待されています。

循環バスの利用は便利であるものの、子ども用の座席・ベルトが必要との声があげられています。

また、ベビーカーや子どもが歩きやすい歩道の整備や、交通量の多い地域での道路整備や子どもに対する交通安全教室の充実も求められ、坂が多い和光市ならではの電動自転車購入の補助があると良いとの意見が出ています。

また、中規模以上の遊具が揃った公園の整備が求められています。

医療

小児科や産婦人科の少なさが指摘されています。

成増駅周辺の医療機関の利用希望はありますが、医療費の手続き上の煩雑さが指摘されています。

遊び場・イベント

商業施設内に子どもが安心して遊べるスペースの設置が期待されています。

また、子育て世代包括支援センターの利用について、入りにくさを感じたため、活動の見え方をするなど、たくさんの子育て世代が利用できるような工夫が必要との指摘がありました。

妊娠・出産

不妊治療や産後ケアに力を入れて欲しいとの意見が寄せられています。

その他

東京都との子育て環境との差を指摘する声や、中学校の数が少ないことや通学の利便性、子どもの居場所に対する不満や不安の声が寄せられています。

その他、ホームページを活用した子育て支援サービスに関する効果的な情報提供や、女性のキャリア形成をストップさせない仕事と家庭の両立支援策が求められています。

3. その他の分析

その他、和光市子ども・子育て支援会議委員の皆様のアンケート調査結果に対するご意見や感想を踏まえ、市の現状について、妊婦本人の就労状況によって、市の子育て支援事業等の利用意向や子育て支援についての考え等にどのような違いがあるかについて、クロス集計による分析を行っています。

(1) 子育てと仕事の両立のために企業に期待すること

「子育てと仕事の両立のために企業に期待すること」をクロス集計で見ると、「就労中／フルタイム」では、「子どもが病気やけがの時などに休暇が取れる」ことが重視されています。

「就労中／パート・アルバイト等」では、フルタイム同様に「子どもが病気やけがの時などに休暇が取れる」ことが重視されているほか、「産前産後の休暇が十分に取得できる」ことが求められています。

その他、「就労中／パート・アルバイト等」では、柔軟な働き方への期待が「就労中／フルタイム」の回答者と比較して高いことが特徴となっており、パート・アルバイト等の雇用環境の整備が期待されています。

■子育てと仕事の両立のために企業に期待すること■

	合計	問21 女性が子育てと仕事の両立のために企業に期待すること													
		産前産後の休暇が十分に取得できる	就業時間を短縮できる	必要な期間、就業時間を短縮できる	育児休業を取得できる	男性も育児休業を取れる	子どもが病気やけがの時などに休暇が取れる	企業内に保育園を設ける	自宅で仕事ができる	出産・育児のための退職後に再雇用	わからない	その他	無回答	非該当	
全体	148	110	118	113	99	98	122	53	94	49	1	11	4	32	
	100.0%	74.3%	79.7%	76.4%	66.9%	66.2%	82.4%	35.8%	63.5%	33.1%	0.7%	7.4%	2.7%		
本人の就労状況	就労中/フルタイム	122	87	96	91	79	79	99	49	79	37	1	8	2	0
		100.0%	71.3%	78.7%	74.6%	64.8%	64.8%	81.1%	40.2%	64.8%	30.3%	0.8%	6.6%	1.6%	
	就労中/パート・アルバイト等	26	23	22	22	20	19	23	4	15	12	0	3	2	0
		100.0%	88.5%	84.6%	84.6%	76.9%	73.1%	88.5%	15.4%	57.7%	46.2%	0.0%	11.5%	7.7%	
	就労していない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
これまで就労したことがない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		

(2) 仕事と家庭生活とのバランスの満足度

「仕事と家庭生活とのバランスの満足度」をクロス集計で見ると、「就労中／フルタイム」では、「就労中／パート・アルバイト等」に比べて「やや不満」「不満」の割合が高くなるのがわかります。

核家族や共働き家庭が増加するなか、仕事と家庭生活の両立を支援するサービスの提供や、企業及び社会の理解促進が求められます。

■仕事と家庭生活とのバランスの満足度■

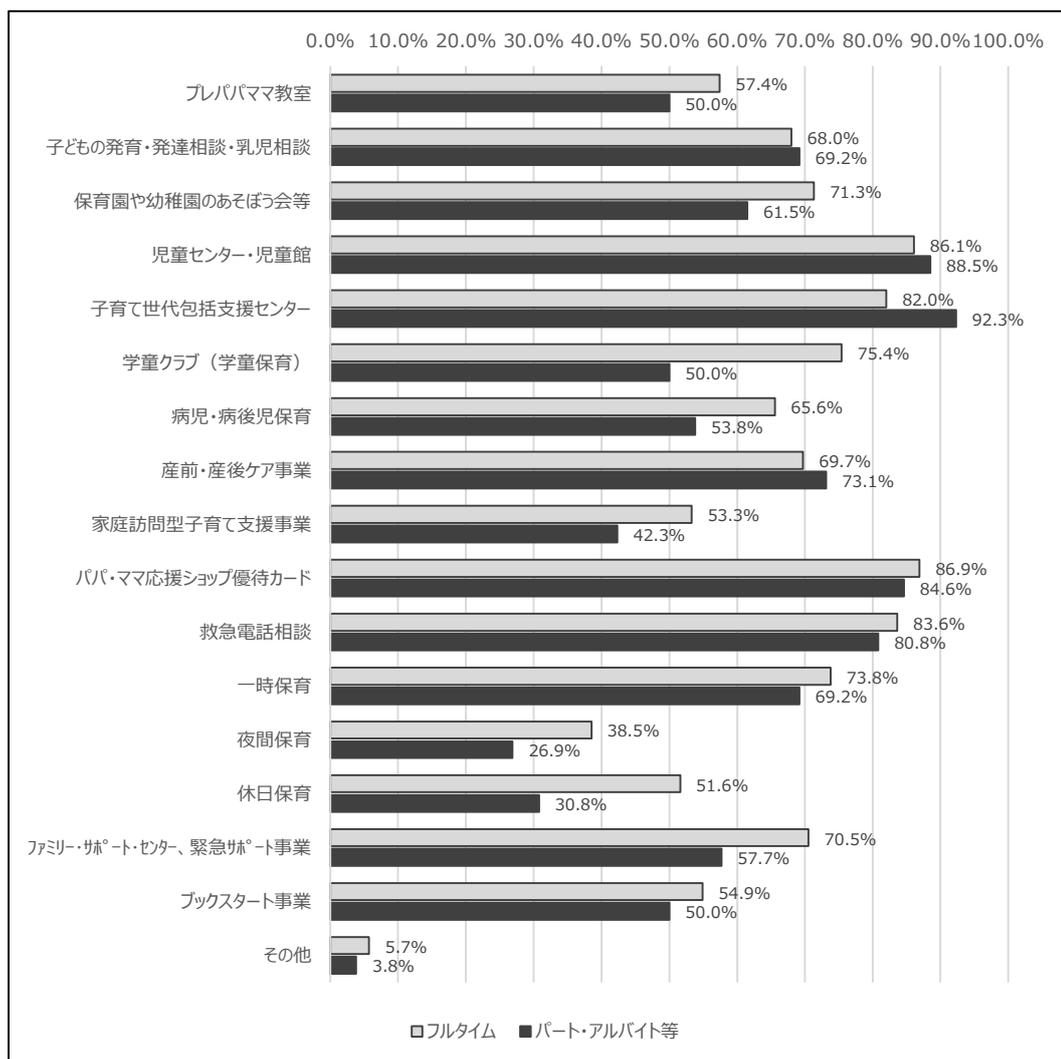
		合計	問22 仕事と家庭生活とのバランスの満足度					非該当
			満足	やや満足	やや不満	不満	無回答	
全体		148	36	82	23	4	3	32
		100.0%	24.3%	55.4%	15.5%	2.7%	2.0%	
本人の就労状況	就労中/フルタイム	122	27	68	21	4	2	0
		100.0%	22.1%	55.7%	17.2%	3.3%	1.6%	
	就労中/パート・アルバイト等	26	9	14	2	0	1	0
		100.0%	34.6%	53.8%	7.7%	0.0%	3.8%	
	就労していない	0	0	0	0	0	0	29
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	これまで就労したことがない	0	0	0	0	0	0	1
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

(3) 子育て支援事業等の利用意向

「就労中／フルタイム」について、子育て支援事業等の利用意向を見てみると、「就労中／パート・アルバイト等」と比べて、「学童クラブ」、「病児・病後児保育」、「夜間保育」、「休日保育」等の保育事業等の需要が高くなっていることがわかります。

一方、「就労中／パート・アルバイト等」については「子育て世代包括支援センター」の利用意向が9割を超えており、市の妊娠中・出産・子育てまでの一貫したサポートが浸透している様子がうかがえます。

■子育て支援事業等の利用意向■



(4) 市は子育てしやすいところだと思うか

「子育てしやすい」と答えた割合については、「就労中／パート・アルバイト等」が「就労中／フルタイム」を上回る一方で、「子育てしにくい」と答えた割合については、「就労中／フルタイム」が「就労中／パート・アルバイト等」を上回ります。

回答者の多くが「ふつう」と回答しており、市の特徴を生かした子育て支援の検討が求められます。

■市は子育てしやすいところだと思うか■

		合計	問26 市は子育てしやすいところだと思うか				
			子育てしやすい	ふつう	子育てしにくい	わからない	無回答
全体		180	42	83	17	36	2
		100.0%	23.3%	46.1%	9.4%	20.0%	1.1%
本人の就労状況	就労中/フルタイム	122	18	66	12	25	1
		100.0%	14.8%	54.1%	9.8%	20.5%	0.8%
	就労中/パート・アルバイト等	26	8	12	3	3	0
		100.0%	30.8%	46.2%	11.5%	11.5%	0.0%
	就労していない	29	16	5	2	6	0
	100.0%	55.2%	17.2%	6.9%	20.7%	0.0%	
これまで就労したことがない	1	0	0	0	1	0	
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	

III 小中学生対象調査

1. アンケート調査結果の分析

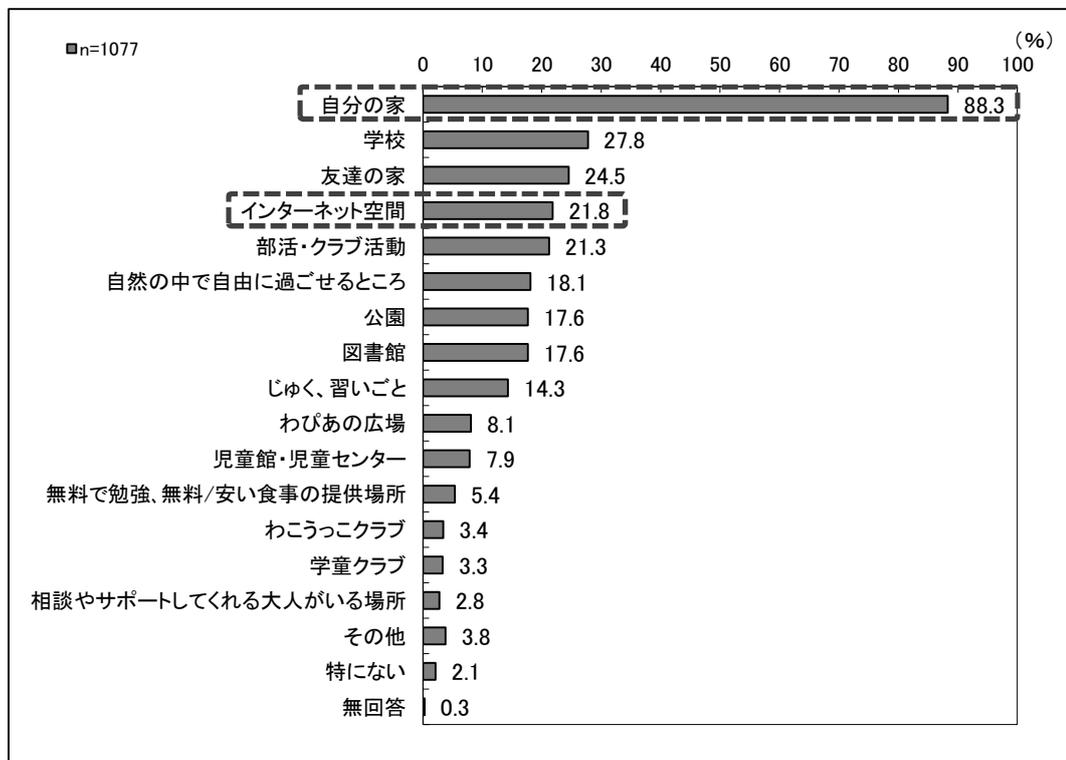
(1) 居場所の多様化

アンケート調査結果では、子どもの居場所として最も選ばれたのは「自宅」(88.3%)ですが、21.8%が「インターネット空間」を選ぶなど、子どもの居場所が多様化しています。

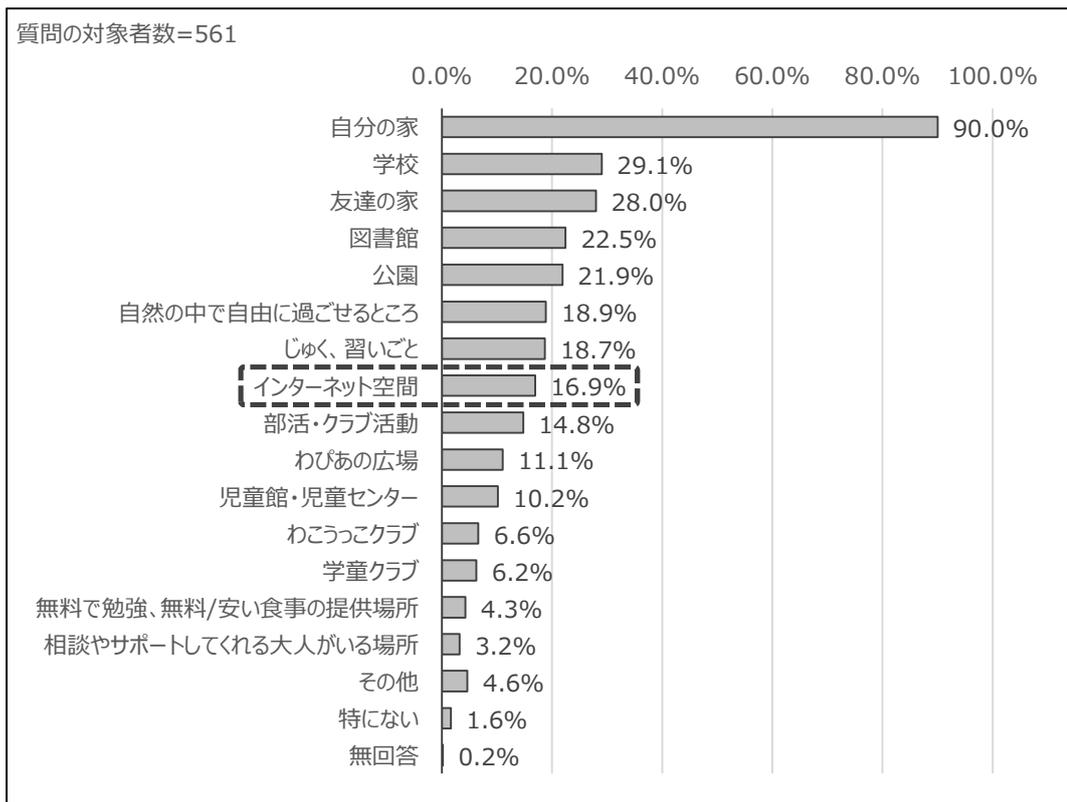
遊びなどで利用したい場所としても、屋内を望む傾向が強くなっています。

小学生、中学生別にみると、「インターネット空間」を選ぶ割合が小学生で16.9%、中学生で27.0%となっており、中学生になると「インターネット空間」を居場所とする割合が10.1ポイント増加します。

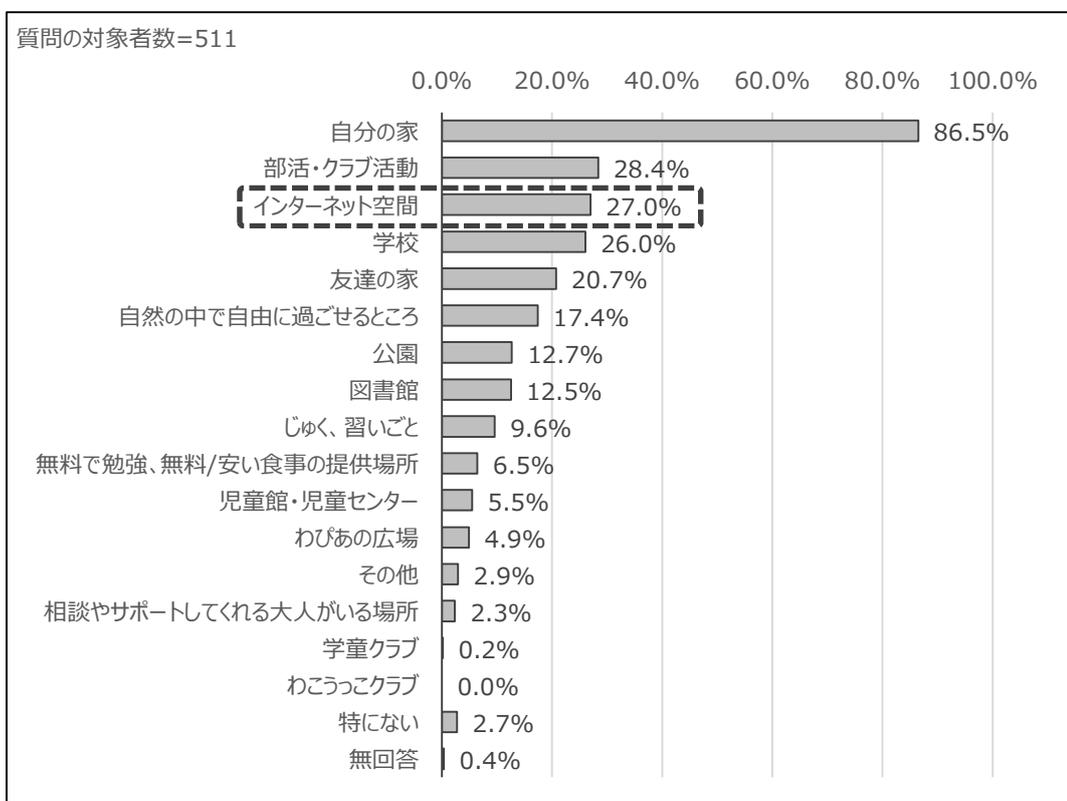
■ (参考) いごちが良い、安心できる、ここにいたい、と感じる場所 ■



■ (参考) いごちが良い、安心できる、ここにいたい、と感じる場所 (小学生の回答) ■



■ (参考) いごちが良い、安心できる、ここにいたい、と感じる場所 (中学生の回答) ■



(2) スマートフォンの普及

情報通信技術の急激な進歩に伴い、スマートフォンが普及し、今やインフラともいえる状況になっています。

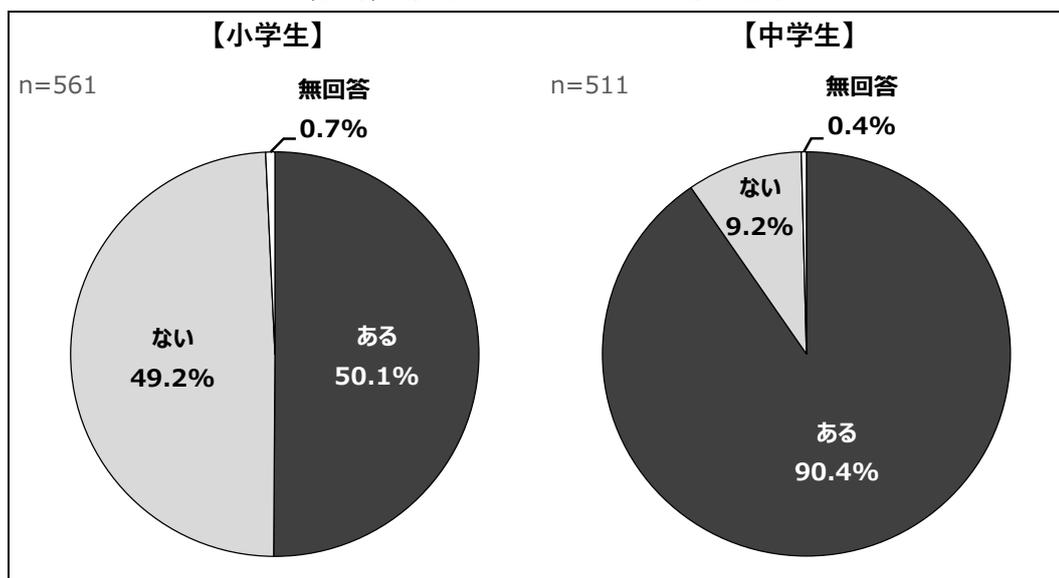
アンケート調査結果によると、自分専用のスマートフォンを所有していると回答した割合が、小学4年生で50.1%、中学1年生で90.4%となっています。

核家族化が進むなか、スマートフォンは働く保護者が子どもと連絡をとったり、安全を把握する手段として活用されたりするなど、使い方次第では非常に便利な機器ではあるものの、こどものスマートフォン使用時間が長時間となっている傾向がみられ、いわゆる「スマホ依存」が懸念されます。

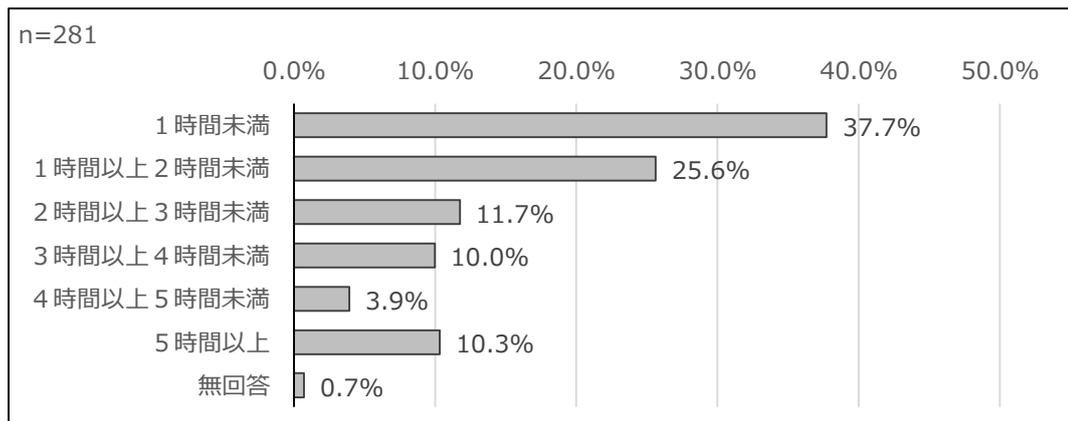
また、インターネット上の顔の見えないコミュニケーションにより、意図しないトラブルに巻き込まれたり、悪意をもった者からの接触により犯罪に巻き込まれたりする危険もあります。

スマートフォンの活用については、正しい使い方の普及啓発を図るとともに、スマートフォンに依存しないコミュニケーションのあり方や居場所について検討していく必要があります。

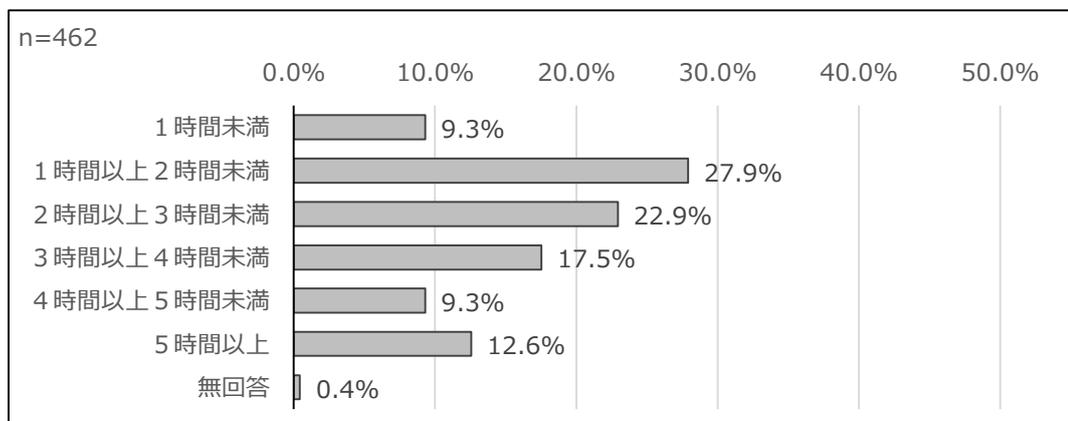
■ (参考) 専用のスマートフォンはあるか ■



■ (参考) 小学生：スマートフォンの使用時間/日 ■



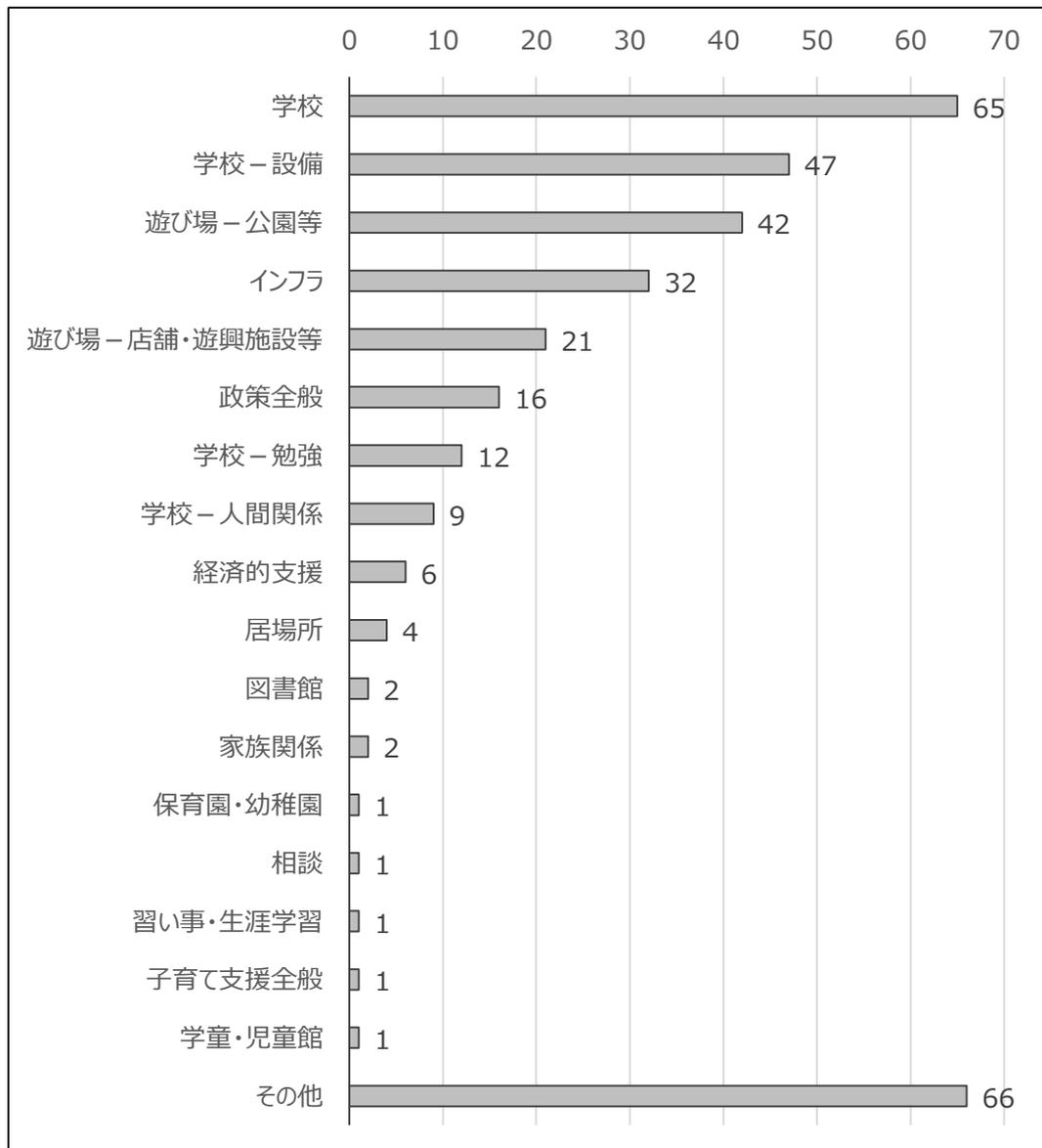
■ (参考) 中学生：スマートフォンの使用時間/日 ■



2. 問 24（自由意見）の分析

小中学生対象調査「問 24 最後に、まわりの大人や先生、市役所などに伝えたいことがありましたら教えてください。」について、意見の内容を分類し、分類ごとの意見を整理しました。

■（小中学生対象調査）自由意見の分類別件数■



学校－ソフト

特に、タブレットの重さや使いにくさに対する不満が多く寄せられています。

また、校則の厳しさや制服に関する不満もあり、スマホの持ち込みや個性の尊重を求める意見がみられます。

その他、クラス替えを半年に一度実施し、コミュニケーションを増やしてほしいという意見がありました。

学校－ハード

トイレに関しては、壊れている箇所の修理や流れにくい問題の改善、洋式便器の導入、便器の温度調整など、清潔で使いやすい設備にすることが求められています。

また、トイレ以外でも水道から温かい水が出るようにしてほしいという声や、ジュースが出るようにしてほしいというユニークな要望もあります。

体育館には冷暖房設備を整えることが強く求められているほか、学校全体の老朽化の進行に伴い、校舎や施設のリフォームや修繕が必要であるという指摘も多くあがっています。

その他、机のサイズを大きくすることや、校庭遊具の増設、給食の皿の材質改善といった具体的な案も提案されています。

学校－勉強

長期休みの宿題を減らしてほしいという要望があります。

特に塾で忙しい人にとっては深夜まで宿題をしなければ間に合わない状況で、学校の宿題をこなす余裕がなく、何を優先すべきか分からなくなるという問題が指摘されています。

また、中学校でお金についての授業を希望する意見もありました。

学校－人間関係

友人との人間関係や直接の当事者でなくても周囲の言葉遣いにストレスを感じるという意見がありました。いじめに関する指摘もあります。

遊び場－公園等

市内には公園は多いものの、公園に犬のフンが放置されていることが多いという指摘があります。

バスケットボールのストリートコートの設置に対する意見が複数出ていることから、設置が強く望まれています。また、ボール遊びの制限が多い住宅地なので、ボール使用が可能な公園を増やす声が多く出ています。

また、ナイター練習ができるようにライトの設置やフットサルができる芝の公園、サッカーコートなど多様なスポーツ施設の整備も求められています。

さらに、室内でお金をかけずに遊べる場所の設置を望む声や、大規模な公園、トレーニングジムの設置なども要望されています。公園のトイレを清潔にしてほしいとの要望もあり、和光市をより暮らしやすくするための遊び場と環境の充実が求められています。

遊び場－店舗・遊興施設等

映画館やショッピングモール、ゲームセンターなどの娯楽施設が求められています。

具体的には、映画館やイオンモールのような大型商業施設、本屋やスポーツ用品店、駄菓子屋、100円ショップ、サブウェイ、ロフト、伊東屋、ZARA、GUなど具体的な店舗名が出るなど、子どもたちが日常使いしたい店舗の充実が望まれています。

さらに、遊園地やラウンドワンのような大型施設も希望されています。これらの要望から、和光市により多くの商業施設や娯楽施設が望まれています。

インフラ

新倉小学校付近の道路は狭く、車が歩道に入って信号待ちをするため事故の危険があるとの指摘があがっています。

娯楽施設の充実を望む声が多くあるものの、マンションの建設はこれ以上増やさないでほしいという意見もあります。

さらに、バスの台数を増やし間隔を短くすることや、道路整備や、道路や公共トイレの清掃を望む声があります

経済的支援

減税や小中学校の子どもたちへの投資、子育て世帯への経済的支援を求める声が寄せられています。

居場所

勉強ができるカフェ、無料でジュースやご飯が食べられる場所、無料で勉強ができる場所を求める声が寄せられています。

その他

- 子どもたちが生きやすい社会を望む声や、中学生でもお金を稼げるようになりたい、一人暮らしをしたいという希望が述べられています。
- 同性愛に対する偏見を持たず、普通の恋愛として受け入れてほしいという意見が寄せられています。
- 和光市については、暮らしやすさや都心へのアクセスの良さを評価する声があります。
- 和光市を有名にするために遊園地やソウルフードの開発、ドッグランの設置などの提案もあります。

3. その他の分析

その他、和光市子ども・子育て支援会議委員の皆様のアンケート調査結果に対するご意見や感想を踏まえ、とくにスマートフォンの利用時間が小中学生の日常生活や生活環境にどのような影響を与えているかについて、クロス集計による分析を行っています。

(1) 就寝時間

小中学生の「就寝時間」についてクロス集計で見ると、小学生、中学生ともに1日あたりのスマートフォンの使用時間が長い人ほど、就寝時間が遅くなっており、スマートフォンの使用時間と就寝時間には相関関係がみられます。

■就寝時間（小学生）■

	合計	問6 就寝時間								
		午後9時前	午後9時台	午後10時台	午後11時台	午前0時台	午前1時台	午前2時以降	無回答	
全体	561 100.0%	65 11.6%	235 41.9%	178 31.7%	55 9.8%	15 2.7%	9 1.6%	2 0.4%	2 0.4%	
スマートフォンの 使用時間/日	1時間未満	106 100.0%	11 10.4%	48 45.3%	30 28.3%	11 10.4%	3 2.8%	2 1.9%	0 0.0%	1 0.9%
	1時間以上2時間未満	72 100.0%	7 9.7%	33 45.8%	28 38.9%	4 5.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	2時間以上3時間未満	33 100.0%	2 6.1%	9 27.3%	15 45.5%	4 12.1%	2 6.1%	1 3.0%	0 0.0%	0 0.0%
	3時間以上4時間未満	28 100.0%	1 3.6%	12 42.9%	10 35.7%	4 14.3%	1 3.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	4時間以上5時間未満	11 100.0%	1 9.1%	1 9.1%	7 63.6%	1 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	1 9.1%	0 0.0%
	5時間以上	29 100.0%	3 10.3%	3 10.3%	5 17.2%	9 31.0%	5 17.2%	4 13.8%	0 0.0%	0 0.0%

■就寝時間（中学生）■

	合計	問6 就寝時間								
		午後9時前	午後9時台	午後10時台	午後11時台	午前0時台	午前1時台	午前2時以降	無回答	
全体	511 100.0%	10 2.0%	33 6.5%	178 34.8%	174 34.1%	82 16.0%	22 4.3%	12 2.3%	0 0.0%	
スマートフォンの 使用時間/日	1時間未満	43 100.0%	1 2.3%	5 11.6%	19 44.2%	7 16.3%	7 16.3%	3 7.0%	1 2.3%	0 0.0%
	1時間以上2時間未満	129 100.0%	4 3.1%	13 10.1%	55 42.6%	46 35.7%	9 7.0%	1 0.8%	1 0.8%	0 0.0%
	2時間以上3時間未満	106 100.0%	1 0.9%	6 5.7%	35 33.0%	42 39.6%	17 16.0%	4 3.8%	1 0.9%	0 0.0%
	3時間以上4時間未満	81 100.0%	2 2.5%	4 4.9%	30 37.0%	29 35.8%	12 14.8%	3 3.7%	1 1.2%	0 0.0%
	4時間以上5時間未満	43 100.0%	1 2.3%	0 0.0%	9 20.9%	16 37.2%	13 30.2%	2 4.7%	2 4.7%	0 0.0%
	5時間以上	58 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	8 13.8%	17 29.3%	19 32.8%	8 13.8%	6 10.3%	0 0.0%

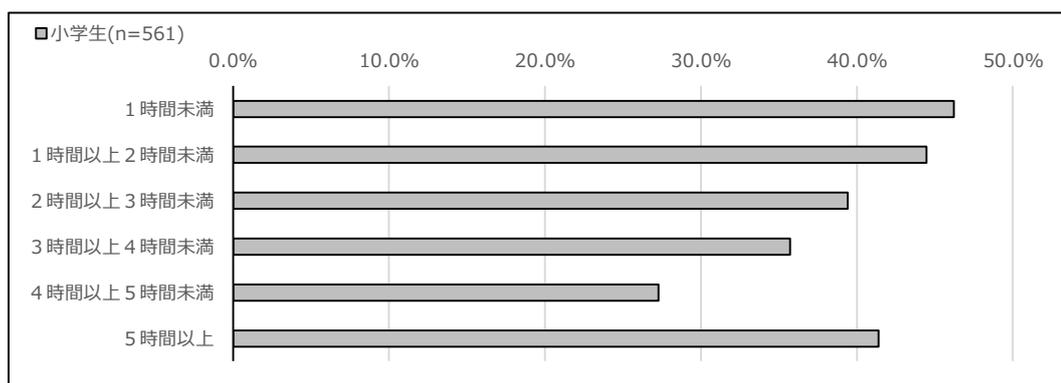
(2) さびしいと思うことが「ある」割合

小中学生の“さびしいと思うこと”が「ある」割合について見てみると、小学生ではスマートフォンの使用時間が長くなると「ある」の割合が低下しますが、使用時間が5時間以上になると「ある」の割合が増加します。

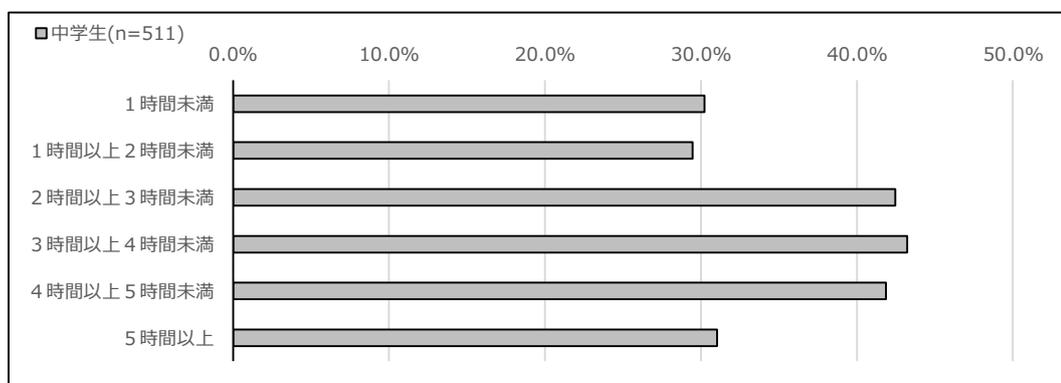
一方、中学生ではスマートフォンの使用時間が2時間以上5時間未満で「ある」の割合が高まりますが、使用時間が5時間以上になると「ある」の割合が低下します。

小学生と中学生ではスマートフォンの使用時間が孤独感に与える影響に差異があることがわかります。

■ さびしいと思うことが「ある」割合（小学生） ■



■ さびしいと思うことが「ある」割合（中学生） ■



(3) 学校の授業の内容がわからないことがあるか

「学校の授業の内容がわからないことがあるか」についてクロス集計で見ると、小学生、中学生ともに1日あたりのスマートフォンの使用時間と学校の授業の理解度については強い相関関係はみられません。

■学校の授業の内容がわからないことがあるか（小学生）■

		合計	問14 学校の授業の内容がわからないことがあるか					無回答
			いつもわかる	だいたいわかる	あまりわからない	わからないことが多い	ほとんどわからない	
全体		561 100.0%	177 31.6%	309 55.1%	43 7.7%	15 2.7%	15 2.7%	2 0.4%
スマートフォンの 使用時間/日	1時間未満	106 100.0%	48 45.3%	49 46.2%	4 3.8%	2 1.9%	3 2.8%	0 0.0%
	1時間以上2時間未満	72 100.0%	20 27.8%	40 55.6%	8 11.1%	3 4.2%	1 1.4%	0 0.0%
	2時間以上3時間未満	33 100.0%	7 21.2%	23 69.7%	1 3.0%	0 0.0%	2 6.1%	0 0.0%
	3時間以上4時間未満	28 100.0%	5 17.9%	17 60.7%	5 17.9%	1 3.6%	0 0.0%	0 0.0%
	4時間以上5時間未満	11 100.0%	3 27.3%	6 54.5%	0 0.0%	1 9.1%	1 9.1%	0 0.0%
	5時間以上	29 100.0%	3 10.3%	18 62.1%	4 13.8%	2 6.9%	2 6.9%	0 0.0%

■学校の授業の内容がわからないことがあるか（中学生）■

		合計	問14 学校の授業の内容がわからないことがあるか					無回答
			いつもわかる	だいたいわかる	あまりわからない	わからないことが多い	ほとんどわからない	
全体		511 100.0%	66 12.9%	325 63.6%	62 12.1%	46 9.0%	11 2.2%	1 0.2%
スマートフォンの 使用時間/日	1時間未満	43 100.0%	10 23.3%	23 53.5%	5 11.6%	3 7.0%	2 4.7%	0 0.0%
	1時間以上2時間未満	129 100.0%	24 18.6%	86 66.7%	11 8.5%	8 6.2%	0 0.0%	0 0.0%
	2時間以上3時間未満	106 100.0%	11 10.4%	68 64.2%	13 12.3%	12 11.3%	2 1.9%	0 0.0%
	3時間以上4時間未満	81 100.0%	7 8.6%	51 63.0%	12 14.8%	10 12.3%	1 1.2%	0 0.0%
	4時間以上5時間未満	43 100.0%	3 7.0%	25 58.1%	5 11.6%	7 16.3%	3 7.0%	0 0.0%
	5時間以上	58 100.0%	7 12.1%	37 63.8%	8 13.8%	5 8.6%	1 1.7%	0 0.0%